

東大研修感想文

1 三菱商事訪問

私は企業訪問で三菱商事に訪問した。三菱グループは、私たちの生活に関わるものでは、自動車や文房具をはじめとした生活産業を行ったり、エネルギー事業や石油の蒸留、造船などの機械製造など多様な事業を行っている大手企業である。その中の三菱商事は、あらゆる部門の貿易に携わる総合商社である。海外約 90 カ国に 200 を超える拠点をもち、600 社を超える連結対象会社と共にビジネスを展開している。三菱商事本社は想像以上に立派な建物であり、入り口から警備員の方の多さや受付の方の立ち姿、振舞いの丁寧さから、三菱商事のすごさが感じられた。私は今回、三菱商事の元人事部の方にお話を伺ってきたが、その中で尊敬するところ、興味を持ったことが大きく個ある。

1 つ目は尊敬するところで、話の上手さである。私はこれまで親や学校の先生をはじめとするたくさんの大人と出会い、いろいろな人から話を聞いてきた。今回私達にお話しをしてくれた社員の方は他の人とは明らかに違う所があった。まず、話の軸がぶれないことである。私達にこれを伝えたいというのがしっかり定まっているように感じた。中学校の先生も良くそのことを意識していると言っていたが話の伝わり方のレベルが違った。とても深く聞こえた。きっと私達のために事前に入念に話すことを考えていてくれたのだろう。また、話している時の表情やオーラも違うように思えた。心の底にある何か絶対的な自信があるように見え、話をしてくれているうちにその人に引かれていくような感覚を覚えた。私たちを 1 人の大人として真剣にやってくれている目が印象的だった。文章で表すのは難しいが、話の上手さはとても身にしみた。

2 つ目は興味深かったことで、三菱商事のリーマンショック時の状況である。リーマンブラザーズが倒産したことで、三菱商事は多くの会社からたくさんの契約を切られてしまった。毎日電話が鳴り止まなく、取引についての電話がほぼ全てであり、電話を取る側は恐ろしくて仕方が無かったそうだ。そこで、三菱商事は長い付き合いのある会社といたみわけをしてなんとかリーマンショックを乗り切ったそうだ。そこで社員の方が感じたことに「人は自分の身が危なくなると、人間性や先を見る力が大きく現れる」というものがあった。商社において契約は核心となるものであり契約を守るというのは大前提である。自社のことだけを思い契約を急に撤回してしまう会社なのか、今はお互い大変だから協力して乗り越えようとする会社なのか、協力してくれた会社とは今でも繋がっているとおっしゃっていた。とても興味深いお話だった。

今回の企業訪問は、自分がまだ経験していないことや、深い体験談などを聞いてすごくおもしろく、自分磨きの大きな 1 つの形となってとてもよかった。

2 OB,OG 懇談会

1 日目の夜、東大を卒業した先輩方との懇談会があった。その中の 1 人の方のお話がとても面白かった。人間の生活は「働く」「学ぶ」「遊ぶ」の 3 つに分けられる。高校生活においては「働く」がまだ無いため「学ぶ」と「遊ぶ」がある。大人は子どもに「学ぶ」を最重要視させ、「遊ぶ」を極力減らさせるようにする。確かに「学ぶ」というのは将来の「働く」に繋がるため大事かもしれない。しかし、現代社会では「新しい発想」が要求されるため、「学ぶ」だけをしていたのでは「新しい

発想」は生まれることはなく、世の中で必要とされなくなる時が来る。少年、青年時代に「遊ぶ」をたくさん経験しておくことで、新しい発想のヒントが見つかりやすくなり、世の中に必要とされる人間となれる。「遊ぶ」が将来の「働く」に大きく繋がる。大切なのはやらなければいけない「学ぶ」と新しい発想を生み出す「遊ぶ」のバランスを保つということである。高校生の君たちには、学ぶことで基礎学力をつけながら、たくさん遊んで青春時代を過ごし、将来は未知なるものを発見、創造して欲しい。とおっしゃっていた。先輩は「遊ぶ」という面で何をしていたのですか？と質問したところ、友達とカラオケやスポーツをよくしていたと答えてくれた。以外に普通だなあ〜と思った。私は東大生は人生の大方を勉強に費やしてきた勉強のスペシャリストのようなイメージが大きかったのでとても意外に感じた。「私も将来必要とされる人間になるために、「学ぶ」と「遊ぶ」を両方頑張っていきたい。

3 ディレクトフォース

1 日目の昼に日本財団の方々との懇談会があり、財団の方の人生話を聞くことができた。その中で私の心に響いた話があった。建築企業に入社しドーム球場を作り活躍した方が私達に「今のうちにたくさん経験し、失敗し、挑戦しなさい」と話してくれた。Try and error を大事にしなさい。学生時代は失敗しても失うものは大人に比べてとても少ない。大人は働いている以上結果が会社が求められるため、失敗を繰り返すとクビになったり、立場を失ってしまう。学生時代は失敗してもクビになることは無く、次を期待されることが多い。社会に出て思ったことは、学生時代に色々なことに挑戦し、たくさんのことを経験してきた大人は、try and error の try の質が高く、それが失敗でも良質な error が生まれ、成功している。他の一般の大人とは何か違うものが見えた。私も学生時代をもっと有意義に使えばよかったと後悔しているよ。とおっしゃっていた。東大研修を終えてから私は、具体的にどの様な経験をすれば良いか考えた。まず、簡単に新しい趣味を作ろうと思い、ギターに興味を持っていたのでギターを始めた。最初の 5 日くらいは左手の指先が痛くたいへんだったが、二週間ほどになると指先が硬くなり、痛みがとれた。そして少しずつコードを覚えている。もしかしたらこれは、財団の方が話していた経験とはずれているかもしれないが、私にとってまた新しい一歩を踏み出すきっかけとなりとてもよかった。これからも少しずつ成長していきたい。

4 東大見学

2 日目は東大のオープンキャンパスに参加してきた。さすがは東大。日本のトップ、世界最高峰の大学だけあって、その賑わいは驚くほどだった。様々な制服が入り交じるのはもちろんのこと、大人の方も多く見受けられた。その時私は少し怖気ついていたかもしれない。東大に行ったこと、東大の資料を読むことでいくつか理解できたものがあった。1 つ目は理学部と工学部の違いである。両者の大きな違いは、工学部は「社会に役立つ材料や仕組みを研究する」ということを目的とした学部であり、理学部は「実用性とは無関係に、様々な研究をする」という学部であるということであった。また、実用性の有無からどのような違いが出るのかというと、研究者として仕事をする際に工学部は企業に就職するケースが多く、理学部は大学に残るケースが多い。私は実用性のある研究をしたいと思っている。大学は今のところ工学部に入りたいなという思いが生まれた。今回の東大オープンキャンパスの参加は 2 年後の大学選択のヒントになりとてもよかった。

5 全体を通して

今回の東京研修は、自分の将来に繋がる経験談を聞いたり日本最高の大学に直接行くことで大学選択のヒントになりとてもよかった。もしかしたら自分では一生経験することができない体験を聞いたのかと思った。本物を見るということで、本当に力のある方々と出会い自分の刺激となった。この経験を十分に活かし、今後の生活をより良いものにしていきたい。